

～ 主な意見を踏まえた整理～

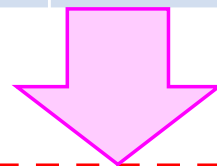
主な意見を踏まえた整理

NO	第6回の主な意見	意見からうかがえる 4つの視点	意見からうかがえる 方向性	期待される効果
1	<p>①核家族化が進み、子育てに慣れていない母親が増え、また共働き世帯が増加したことから夜間に受診する患者が増加してきた。</p> <p>②北九州市は24時間救急(4病院)があり、これらを直接受診することが多いためテレフォンセンターや「#8000」の利用が他の地域と比べ、少ない。</p> <p>③小児救急4病院の患者には、必ずしも当該4病院でなくても、診察可能な軽症患者がいるのではないかと。</p> <p>④市立八幡病院の時間外患者数のうちの入院患者数を見ると、不要不急ないわゆるコンビニ受診者が多いのではないかと。</p> <p>⑤小児救急医療体制の見直しとあわせて、SNSによる適正受診の啓発や「#8000」の活用啓発など、強化や更なる活用を行っていく必要がある。</p> <p>⑥テレフォンセンターや「#8000」でのトリアージが重要。不要な受診を減少させていくのがよい。</p>	必要なときに 必要な医療を 受けられる環 境づくり	<p>○適正受診・情報発信 (市政だより、市ホーム ページ、SNSなど)を 強化すべきではないか。</p> <p>参考資料 1</p> <p>○テレフォンセンター などの案内・相談機能 を強化すべきではない か。</p> <p>参考資料 2</p>	<p>【市民への効果】</p> <p>○市がきめ細やかな情報を発信することで、市民は、必要な時に、必要な情報の提供を受けることができる。 ○#8000やテレフォンセンターを身近なものとして活用してもらうことにより、専門相談員が、子を持つ親の不安感を和らげ、適切な医療機関等の案内につなげる。 ○ご家族など大切な人が、もしもの時でも、安心して救急医療の提供を受けることができる。</p> <p>【医療機関への効果】</p> <p>○適正受診が浸透することで、真に必要な患者に救急医療を提供することが出来る。</p>
2	<p>①市立八幡病院の小児科は、医師数が減少傾向にあり、平均年齢も上がってきており、当直ができない医師も増えてきている。</p> <p>②開業医も出務等できる範囲でお手伝いするが、高齢化などの年齢のこともある。また勤務医の働き方改革を含め、改善、改革が必要。 医師もワークライフバランスを重視するような世代になり、医師の確保が困難になった。</p> <p>③開業医ができることは、1次救急の部分。ハード的、システムの、その場を与えてもらえれば、1次救急なら回せる。</p> <p>④市立八幡病院の中に、開業医等の応援のもと、1次救急患者を診察、入院が必要であればそのまま入院してもらうなどという体制を構築してもらえれば、ありがたい。</p> <p>⑤大分県の中津市民病院や山口県のJCHO徳山中央病院では、病院の救急外来の一部で、小児初期救急医療の提供を実施。必要であれば、同病院で2次救急(入院)対応を行っている。北九州も同様にできれば。</p>	人材不足を 引き起こさな いマネジメント 対策	<p>○マンパワーを市立八幡病院に集約するなど、小児1次救急の受入体制を強化すべきではないか。</p> <p>参考資料 3</p> <p>参考資料 4</p> <p>参考資料 5</p>	<p>【市民への効果】</p> <p>○市立八幡病院の小児診療体制が強化され、患者は医療スタッフ、設備が整った環境で受診が出来る。 ○診療後、入院など高度な治療が必要になった場合でも、そのまま市立八幡病院で治療を受けることができる。</p> <p>【医療機関への効果】</p> <p>○市立八幡病院の医師の負担軽減が図れる(ひっ迫状況の緩和) ○入院医療、専門医療が必要となった患者へマンパワーを注ぐことができる。</p>
3	<p>①北九州市は、24時間救急(4病院)があり、また夜間休日急患C、日・祝には門戸・若松休日急患診療所があり、恵まれた状況だが、今後は医師の確保が困難になるため、今から持続可能な救急医療体制についての検討が必要。</p> <p>②現在の小児救急の仕組みは、維持困難、サステナブルでない。 全体を見直し、集約化することが必要。</p> <p>③1次救急の患者数から見ると、最初にできることは、休日急患診療所の診療体制の見直し。部分的な改革が必要。</p> <p>④現在、大学病院は、北九州市内外の医療機関から要望があり、医局員を出しているが、医師を出せなくなると医療機関は立ち行かなくなる。人口12～15万人規模の都市の受診患者レベルである夜間・休日急患センターなどは効率が悪く、集約化していくのがいいのではないかと。</p>	持続的な 小児医療体制 の確保	<p>○市全体で、マンパワーの最適化を検討することにより、持続可能なものにすべきではないか。</p> <p>参考資料 6</p>	<p>【市民への効果】</p> <p>○マンパワーの最適化により、持続的な小児医療体制が確保されることで、市民は、子ども、孫など何世代にも渡って安全で安心な小児救急医療の提供を受けることができる。</p> <p>【医療機関への効果】</p> <p>○限られたマンパワーを多くの小児患者が訪れる医療機関で生かすことができる。 ○市全体の小児救急医療体制により大きく貢献していただける。</p>
4	<p>①市立八幡病院は、固定した派遣医局がなく、医師確保が難しい。小児科医が救急のためだけに、働いているということになったら、若い医師は、将来的な希望が持たなくなるため、援助が必要。</p> <p>②若い先生が勉強する機会を作るためには、時間的、精神的余裕が必要。その体制を、どのように確保するか。</p> <p>③市立八幡病院の産業医科大学病院等との交流は、市立八幡病院の若い小児科医の教育に非常に重要。</p>	市立八幡病院 の大学病院等 との連携によ る医療体制の 充実強化	<p>○大学病院等との連携により、市立八幡病院の体制を再構築すべきではないか。</p> <p>参考資料 7</p>	<p>【市民への効果】</p> <p>○本市の小児医療の底上げにつながり、市民はより高度な医療サービス享受出来る。</p> <p>【医療機関への効果】</p> <p>○連携による小児科医の専門性の向上が期待できる。 ○大学病院等により医師の派遣がより期待できるとともに、大学病院等も初期救急1を学ぶことができる。</p>

①コンビニ受診対策をはじめとした適正受診・情報発信について

取 組	令和6年度実績	内 容
市ホームページ掲載	通年	<p>真に受診が必要な患者が救急医療を利用できるよう、市民に対し、日中のかかりつけ医の受診勧奨、不要不急の夜間・休日受診を避ける協力をお願い、また電話相談窓口(※)の活用による適正受診について啓発</p> <p>※福岡県小児救急医療電話相談「#8000」 福岡県救急医療電話相談「#7119」 市テレホンセンター「093-522-9999」</p>
市政だより掲載	4回実施	
情報誌(フリーペーパー)掲載	3回実施	
市公式SNS(X・LINE)での発信	13回実施	
小中学校保護者用・母子手帳アプリでの発信	6回実施	

【出典】北九州市保健福祉局地域医療課調べ



コンビニ受診対策をはじめとした適正受診・情報発信を強化するか。

(例)・啓発キャンペーン実施

- ・日本小児科学会ウェブサイト「こどもの救急」、アプリ等の活用
- ・SNS等情報発信の強化など

②テレフォンセンターなどの本市の案内・相談機能について

(令和6年度実績)

	概 要	件数
北九州市テレフォンセンター (夜間・休日急患センター【馬借】内)	急な病気やケガに関する簡単な相談に看護師などが電話対応。 また必要に応じて医療機関の案内も行う。	54,698件 (うち小児関係 約1万件)
福岡県小児救急医療電話相談 (#8000)	子どもの急な病気(発熱、下痢、嘔吐、痙攣等)、ケガに関する相談に対し、 看護師、または必要に応じて小児科医がアドバイスをする平日夜間・休日 の電話相談	非公開

【参考】小児救急4病院の時間外患者数について

病院名	R6時間外患者数 ①	①のうち入院患者数 ②	入院にならなかった患者	
			患者数③ (①-②)	割合(③/①)
市立八幡病院	23,068	1,206	21,862	94.8%
北九州総合病院	3,990	631	3,359	84.2%
国立小倉医療センター	7,514	1,976	5,538	73.7%
JCHO九州病院	4,593	512	4,081	88.9%

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋

上記の患者数には夜間・休日急患センターなどでも
診療が可能であった軽症患者も多く含まれる？

○小児救急4病院の負担を軽減するため、テレホンセンターなどの活用によるトリアージ機能を強化するか。(1次患者をいかに抑えていくか)

⇒わかりやすいトリアージ基準のマニュアル作成など

○子を持つ親の不安感を和らげる案内・相談機能をどうするか。

市立八幡病院の小児救急患者の受入状況について

参考資料 3

(令和6年度)

区分	小倉北				小倉南		八幡東		八幡西		門司	若松	計
	市立 医セ	健和会	急患 センター	北九 総合	九州 労災	国立 小倉	製鉄 記念	市立 八幡	JCHO 九州	産医大	門司休日 急患診療所	若松休日 急患診療所	
外来患者数(※1)	5,670	256	3,568	6,435	2,386	23,080	545	45,880	17,280	9,712	785	730	116,327
うち時間外 患者数 計	911	21	3,568	3,990	10	7,514	6	23,068	4,593	336	785	730	45,532
時間外患者数計に 占める割合	2.00%	0.05%	7.84%	8.76%	0.02%	16.50%	0.01%	50.66%	10.09%	0.74%	1.72%	1.60%	100%
深夜帯	169	10	69	964	0	1,939	0	5,012	1,198	80	0	0	9,441
深夜以外	742	11	3,499	3,026	10	5,575	6	18,056	3,395	256	785	730	36,091
入院患者数(※2)	549	0	0	1,332	179	3,929	6	3,253	2,271	792	0	0	12,311
救急車搬送 患者受入数(※3)	394	0	0	531	14	621	0	1,093	952	114	0	0	3,719

(※1)外来の延患者数、(※2)総入院患者数、(※3)救急車にて搬送されてきた患者数

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋

【時間外患者数の状況について】

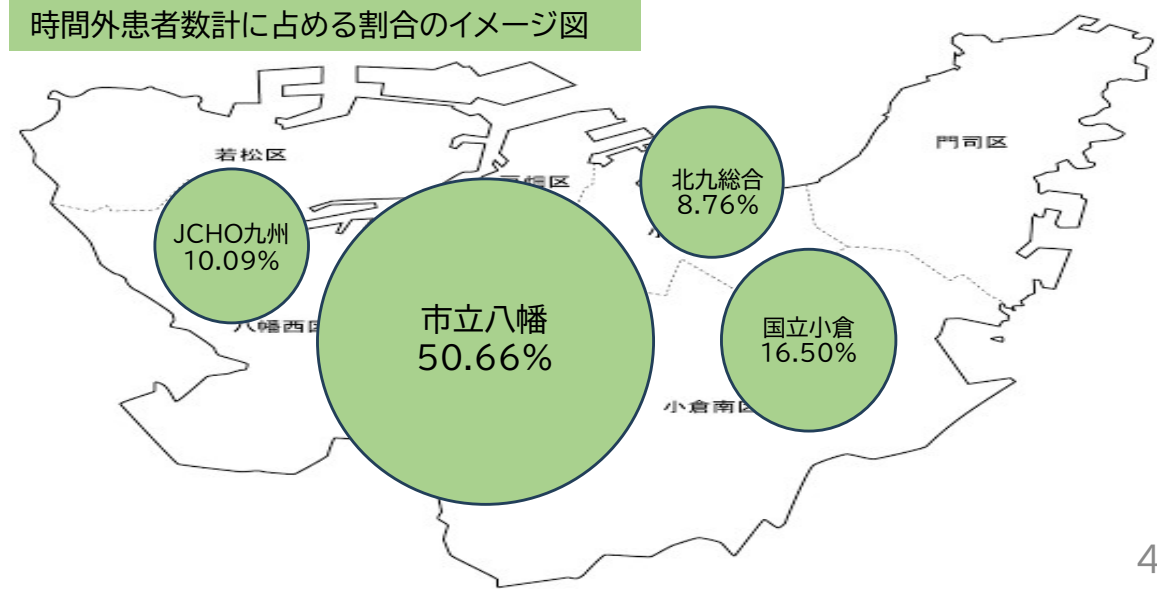
・小児救急ネットワーク4病院全体の時間外患者数は、時間外患者数全体の約86%を占めており、4病院の中でも、特に市立八幡病院の時間外患者数は、時間外患者数全体の約51%となっている。

※小児救急ネットワーク4病院・・・「北九州総合病院」、「小倉医療センター」、「市立八幡病院」、「JCHO九州病院」

【市立八幡病院の現状について】

- ・夜間の当直者について、朝、予定どおり帰れないことがある。
- ・夜間、特に深夜帯の患者が多く、疲弊の原因となっている。
- ・当直医や中堅医師の時間外勤務時間が多くなっている。

時間外患者数計に占める割合のイメージ図



時間外受診時に希望する医療機関（アンケート結果）について

参考資料 4

【調査の概要】

- 実 施 主 体:北九州市(「小児救急ネットワーク部会」に協議の上、実施)
- 実 施 期 間:令和6年7月29日～8月18日
- 調査対象者:小児をもつ保護者
- 実 施 方 法:市内の小児科医療機関、区役所等にアンケート依頼案内のチラシを配布し、電子(Graffer)にて回答を得た。
- 有 効 回 答:2,025件

【質問項目:子どもが夜間休日に受診が必要となった場合、どのような医療機関を希望するか】

	合計	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	市外
かかりつけの病院	644	42	127	159	58	57	139	36	26
夜間・休日に受診可能な診療所	1,177	65	220	321	122	108	227	75	39
検査・入院体制が整った病院	997	55	190	297	95	109	159	67	25
テレフォンセンター等で案内された病院	395	29	84	123	31	27	68	22	11
その他(※)	25	4	1	7	4	1	6	2	0

「夜間・休日に受診可能な診療所」を希望する回答が1,177件でトップであった。
また次いで「検査・入院体制が整った病院」も半数近くあった。

小児救急医療体制に係る参考事例について

参考資料 5

	医療機関名	形態	診療時間	概要
周山 南口 市県	周南地域休日・夜間こども急病センター (JCHO徳山中央病院内)	病院の一部	○夜間(休日を含む毎日) 19時～22時 ○休日(日・祝、12/31～1/3) 9時～12時 13時～17時 19時～22時	周南地域二次医療圏(周南市、下松市、光市)の小児科医が協力して、JCHO徳山中央病院にて、休日・夜間の小児初期救急医療を実施。 JCHO徳山中央病院の小児科医が、常時、救急外来処置室においてバックアップ体制を取り、二次救急医療・入院医療などにあたっている。
中大 津分 市県	中津市立小児救急センター (中津市立中津市民病院敷地内)	市立診療所	○平日 19時～22時 ○土曜 12時～22時 ○日・休日 9時～22時	周辺医師会や各大学、近隣病院の協力により、夜間・休日に急病となったこどもを診療

【出典】各病院ホームページ等

時間外の区民ごとの受診動向（アンケート結果）について

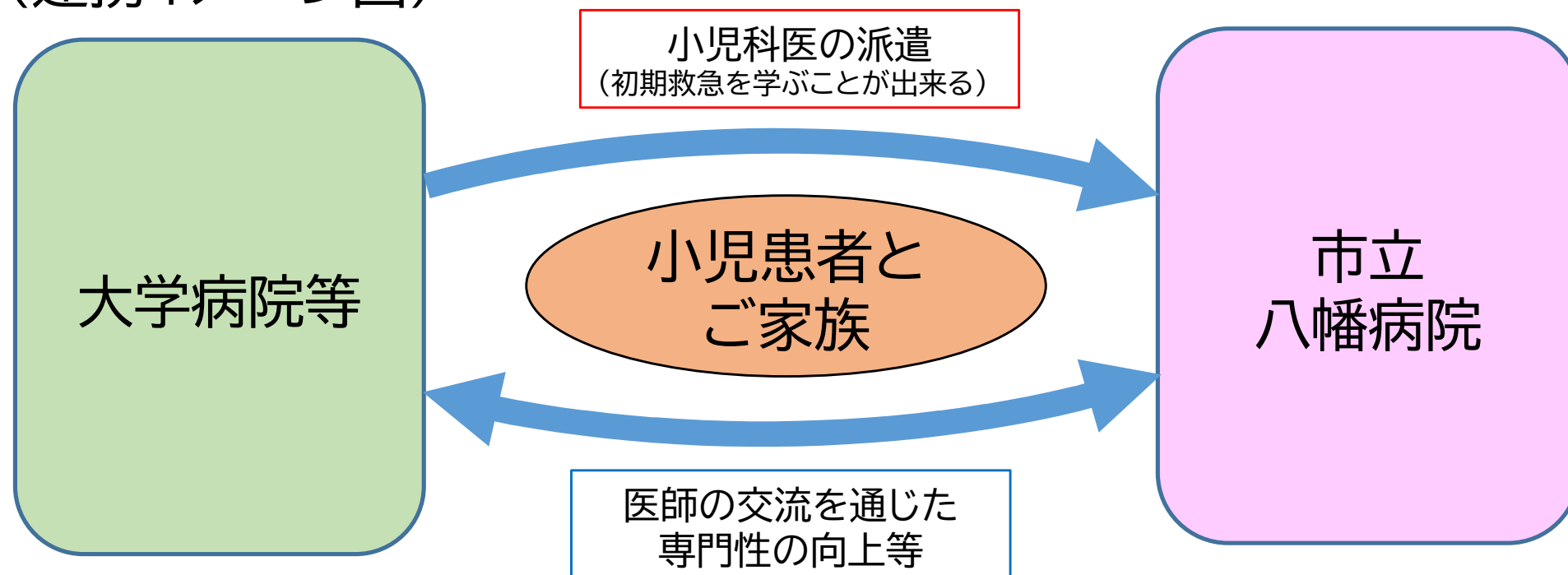
参考資料 6

【質問項目：小児患者の住所区ごとの受診医療機関】

	総数	門司区		小倉北区		小倉南区		若松区		八幡東区		八幡西区		戸畑区		市外	
		患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)	患者 (人)	割合 (%)
門司休日急患診療所	39	36	18.9	2	0.4	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
夜間・休日急患センター	384	48	25.1	130	27.3	143	19.7	14	5.2	9	4.5	17	3.9	21	14.2	2	2.6
北九州総合病院	318	42	22.0	91	19.1	162	22.3	4	1.5	7	3.5	1	0.2	8	5.4	3	4.0
国立小倉医療センター	376	22	11.5	78	16.4	256	35.3	5	1.9	4	2.0	4	0.9	4	2.7	3	4.0
若松休日急患診療所	67	0	0.0	1	0.2	0	0.0	53	19.8	0	0.0	10	2.3	1	0.7	2	2.6
市立八幡病院	865	31	16.2	123	25.8	102	14.1	136	50.8	154	77.0	206	46.6	93	62.8	20	26.3
第2夜間・休日急患センター	74	4	2.1	8	1.7	4	0.6	14	5.2	6	3.0	33	7.5	5	3.4	0	0.0
JCHO九州病院	200	0	0.0	4	0.8	9	1.2	29	10.8	8	4.0	129	29.2	4	2.7	17	22.4
その他(※)	204	8	4.2	40	8.3	48	6.7	13	4.8	12	6.0	42	9.4	12	8.1	29	38.1
合計	2,527	191	100	477	100	725	100	268	100	200	100	442	100	148	100	76	100

(※)その他の病院(市外病院含む)など

(連携イメージ図)



市立八幡病院の小児救急医療体制の再構築

- 市立八幡病院と大学病院等との交流や連携により小児科医の専門性の向上が得られるか。
- また大学病院等から市立八幡病院への医師の派遣を通じ、派遣医師は初期救急を学ぶことが出来るか。
- 本市の医療の底上げにつながり、市民はより高度な医療サービスを享受出来る。

「意見からうかがえる方向性」の体系図

